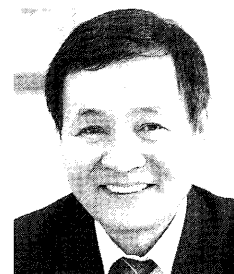


## 故 伊藤誉志男先生を偲んで



本学会名誉会員 伊藤誉志男先生が2020年6月21日にご逝去されました。享年83歳でした。ここに謹んで哀悼の意を表します。

伊藤誉志男先生は、1936年にお生まれになり、1961年に富山大学（現在の富山医科薬科大学）薬学部をご卒業後、大阪大学大学院薬学研究科に進学され、1967年に同研究科（衛生化学講座）博士課程を修了されました。同年、厚生省国立衛生試験所（現在の国立医薬品食品衛生研究所）の厚生技官、1976年には大阪支所食品部主任研究官、1977年同部第一室長、1984年同部部長を歴任されました。この間、1971年から2年間、米国ウィスコンシン州立大学生命科学部生化学教室に博士研究員として留学されています。1993年には、武庫川女子大学薬学部衛生科学講座の教授に就任され、2003年にご退職されるまで、武庫川女子大学の発展に大きく貢献されました。同大学ご退職後は、日本食品分析センター学術顧問として、後進の指導にあたられ、2014年にご退職されてからは、NPO法人食品安全ネットワーク会長、兵庫栄養専門学校講師、紅麴色素協会会長、兵庫県衛生研究所外部評価委員、兵庫栄養専門学校評議員としてご活躍されていました。

先生は、日本食品化学学会、日本食品衛生学会など多くの学会で評議員、事務局長、理事を務められ、特に2004年～2005年には日本食品化学学会の理事長として、学会の発展に大きく貢献されました。

先生のご研究内容は、食品添加物、残留農薬、アレルギー成分などを中心に幅広く、「残留農薬の分析法の開発」「輸入食品の化学検査と安全性確保」「食用タール色素の分析法の開発」「食品中の添加物の分析法の開発」「日本人の食品添加物の1日摂取量の調査研究」など多くの業績を残されています。特に日本人の食品添加物の1日摂取量の調査研究は、25年間という長期にわたるご研究で、先生はご自身の著書にも「不可能へのチャレンジ」と語っておられます。当時、約350種類の許可食品添加物の中で正確に定量できる食品添加物は数十種類しかなく、まずは定量法の開発からはじめなければなりません。さらに、調査方法も日本人の食品添加物摂取量を正確に反映するものは確立されておらず、また全国各地の市販食品試料を調達し、分析するための技術者の確保にも大変ご苦労をされました。先生の研究に対する情熱と人脈が実を結び、マーケットバスケット方式による日本人の食品添加物1日摂取量の調査方法および食品中の食品添加物（約210品目）の超高感度定量法を確立されました。この方法による調査研究は、現在でも引き続き実施されており、厚生労働省のホームページで公開されています。

先生が武庫川女子大学にご着任され、主宰されていた研究室は大変活気があり、研究面においても教育面においてもきめ細かい指導をされていたので、意欲のある元気な学生が集まる人気の研究室でした。また、先生はテニス、ゴルフ、卓球、野球などスポーツ万能で、特に先生の研究室のある棟の隣にはテニスコートがあったため、時間を見つけては、仲間を集めてテニスを楽しんでおられました。

先生のお元気な姿と素敵な笑顔が、今でも目に浮かびます。

先生の学界における多大な貢献に感謝するとともに、多くの輝かしい功績を残されましたことに敬意を表し、心からご冥福をお祈りいたします。

（武庫川女子大学 食物栄養科学部 食創造科学科 学科長 松浦寿喜）